

## 白岡市環境基本計画リーディングプロジェクト進行管理シート

リーディングプロジェクト1

低炭素社会から脱炭素社会の実現にチャレンジする脱炭素社会を実現しよう！プロジェクト

令和5年度における関連する社会の出来事

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、国民・消費者の行動変容、ライフスタイル転換を促すため、令和4年10月に提案された「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」の愛称が「デコ活」に決定され、企業などをはじめ、様々な取組が展開されるようになった。

### ■脱炭素社会を実現するための取組

#### ◆脱炭素社会の実現に向けた白岡市の地域全体の取組を強化します！

環境基本計画で定めた「市の具体的な取組」

令和5年度に実施したこと

評価

●白岡市の全域から排出される温室効果ガスの削減を目指した地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の策定に努め、市・市民・事業者の三者協働による総合的な地球温暖化対策を推進します。	(環境課) 地球温暖化について楽しく学ぶコミックサイエンスショーを義務小学校で開催するなどした。	新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類相当に移行され、市の事業や市民活動等が以前のように戻ってきた。令和6年度は様々な機会をとらえ、地球温暖化問題について普及啓発を行う。
---	---	---

#### ◆省エネルギー活動や再生可能エネルギー、高効率なエネルギーの利用を進めます！

環境基本計画で定めた「市の具体的な取組」

令和5年度に実施したこと

評価

●公共施設は、石油依存度低下につながる再生可能エネルギー機器の導入・活用を推進します。	(財政課) 当該年度中の実施事業無し。	公共施設への太陽光発電システムの導入については、PPA事業での導入を検討している。 なお、施設ではないが、公用車にEVを導入し、化石燃料使用の抑制につながる行動をとることができた。
●省資源・省エネルギー等に配慮した環境負荷の少ない住宅の普及を図り、環境にやさしい住宅づくりを促進します。	(環境課) 省エネ・創エネ機器設置への補助金を支出した。 また、8月には一定基準を満たす省エネ家電製品等を買換え購入した世帯を対象に補助金を交付する、「白岡市省エネ家電製品等買換え促進補助金事業」を実施した。 令和5年度創エネ・省エネ機器設置費用補助金交付実績 ・太陽光発電システム設置事業補助金 30,000円／件 20件 ・LED照明設置事業補助金 5,000円／件 19件 ・家庭用エネルギー管理システム(HEMS) 10,000円／件 4件 ・家庭用蓄電池設置事業補助金 30,000円／件 27件 ・EV・PH(E)V 30,000円／件 11件 ・V2H 30,000円／件 1件  省エネ家電製品等買換え促進補助金事業交付実績 ・冷蔵庫 226件 ・エアコン 334件 ・テレビ 116件 ・高効率給湯器 53件  地域脱炭素移行・再エネ推進交付金事業実績 ・高効率照明機器 10件	令和3年度から補助対象機器に加えた、家庭用エネルギー管理システム(HEMS)は、4件であった。 定置用リチウムイオン蓄電池については、平成28年度から補助対象に加えて以降、申請件数が毎年30件前後あり、一定の効果を得られている。太陽光発電システムの申請件数は平成30年度の28件をピークに、その後は15件前後となっている。 また、LED照明器具の申請については、近年は減少傾向であったが、昨年度は19件に増加した。 令和5年度からは、対象品目にV2H(充放電設備)とPH(E)Vを追加し、それぞれ1件、11件の申請があった。 令和6年度は申請件数が伸び悩んでいた家庭用エネルギー管理システムへの補助金をやめ、EVへの補助金額を50,000円に引き上げることとした。 引き続き省エネの啓発とともに、補助対象機器や補助単価等の見直しなど、効率的な補助ができるよう考えていく必要がある。

#### ◆暮らしの中で身近に取り組める行動を促進します！

環境基本計画で定めた「市の具体的な取組」

令和5年度に実施したこと

評価

●地球温暖化対策の一環として、公共施設等に緑のカーテンを設置するとともに、市民や事業者への普及啓発にも努めます。	(環境課) 令和5年度は市庁舎、市内保育所で緑のカーテンを設置した。また、市民向けに緑のカーテン活用講座として、講習会を開催し26世帯が参加した。 その他にも、商工会を通じて緑のカーテン設置を希望する5つの事業者にゴーヤの苗を配布した。	令和4年度に続き、令和5年度も実施することができた。 緑のカーテンは比較的簡単にできる温暖化対策であるため、今後も継続して市民・事業者に対して普及啓発していく。 講習会参加者が減少傾向にあるため、周知方法の見直しを行い、増加するように努めていく。
●国、県、市等で行う脱炭素社会構築のための行動促進の呼びかけ(キャンペーン)を行い、市民・事業者に周知します。	(環境課) 温暖化防止啓発として、温暖化について楽しみながら学ぶコミックサイエンスショーを義務小学校で開催、省エネ家電製品等買換え促進補助金の交付などを実施した。 また、夏と冬に埼玉県が推進する「ライフスタイルキャンペーン」について、市広報紙にて啓発を図ったほか、エコライフDAYの参加を公式ホームページなどで呼び掛けた。	市内の小学校とも連携した啓発イベント等を開催し、将来を担う世代も含めた全世代を対象とした市民層への普及啓発することができた。 また、各種キャンペーンについては、脱炭素社会の実現に向けて、従来どおりの広報紙及び公式ホームページでの告知だけではなく、公式ツイッターなど幅広いツールを活用した告知が必要である。
●エコライフDAYの参加を広い世代、様々な主体に呼びかけます。	(環境課) 市広報紙や公式ホームページで参加を呼び掛けた。	埼玉県としてはエコライフDAYの当初の目的は達成されたものとして取組を縮小しており、実施は各自治体の任意となっているが、市としては引き続き、広報紙等で周知を行っている。 チェックシートで確認しながら、省エネ・省資源などの環境に配慮した生活を意識することで、地球温暖化防止のための自身のライフスタイルを見直す機会となっている。

#### ◆白岡市の生活に潤いを与える、貴重な緑の保全と緑化を推進します！

環境基本計画で定めた「市の具体的な取組」

令和5年度に実施したこと

評価

●市民と協力し、「ふるさとの森」をはじめ、里山林、屋敷林、社寺林などの残された樹木・樹林の保全・管理に努めます。	(環境課) 市街化区域内の緑地を保存樹木、保存樹林として指定し、奨励金を交付することにより、緑豊かな生活環境の維持保全に努めた。 彦兵衛下小笠原遺跡ふるさとの森(ひこべえの森)において、樹木の剪定を行った。	ひこべえの森は市民団体(白岡緑と土の会)の協力を得て維持管理を行っているほか、同所において、12月に実施された「冬の集い」では市内4中学校をはじめとする学生や一般市民など、94名の参加があった。 引き続き、緑の維持保全活動を推進していく必要がある。
●各家庭、学校、事業所などで草花や樹木の植え付けが行われ、緑豊かでやすらぎを感じられるようなまちづくりを促進します。	(環境課) 緑のカーテン事業では個人だけではなく、市内保育所や商工会の協力を得て事業者にも配布をした。	個人だけでなく保育所や事業者など幅広く配布することにより、私の空間での緑の創出の促進を図ることができた。

### ■「市民・事業者」の取組

令和5年度に実施したこと

評価

【市民の取組の例】	・創エネ・省エネ促進事業及び省エネ家電製品等買換え促進補助金事業を実施し、市民の再生可能エネルギー機器導入を促進した。 ・埼玉県が推進する「ライフスタイルキャンペーン」について、市広報紙にて啓発を図った。 また、エコライフDAYのチェックシートを活用したライフスタイルの見直しを、市広報紙等で参加を呼び掛けた。	・創エネ・省エネ機器の設置費補助については、昨年度を上回る申請があった。今後も需要を見定め、補助対象機器を固定せずに柔軟に見直しをしていく必要がある。 ・エコライフDAYは誰もが簡単に参加ができる啓発ツールであるため、今後も積極的に参加を呼び掛けていきたい。
【事業者の取組の例】	・事業所や事業活動において省エネルギー・再生可能エネルギー設備の導入を図りましょう。 ・事業所内の温度を適正に管理し、消灯などの節電、節水を徹底し、備品の再利用など省エネルギーに努めましょう。	

### プロジェクトを推進するための数値目標

担当課	項目	基準	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績	中間目標	目標
		令和元年度							令和7年度	令和12年度
環境課	住宅用創エネ・省エネ機器設置費用累計助成件数	50件	52件	62件	60件	82件			250件	500件
財政課	公共施設への太陽光発電システム設置基數	6基	6基	6基	7基	7基			7基	8基
財政課	市役所庁舎電気使用量	1,016,412 kWh	1,163,845 kWh	1,102,304 kWh	961,202kWh	1,031,311 kWh			955,427kwh	904,606kwh
環境課 (蓮田白岡衛生組合)	市民1人1日当たりのごみ排出量	784g/人・日	808g/人・日	786g/人・日	773g/人・日	741g/人・日			746 g/人・日	738g/人・日 (R11年度目標)

### 総括

◇低炭素社会から脱炭素社会の実現にチャレンジする脱炭素社会を実現しよう！プロジェクト  
脱炭素社会に向けた取組として、市は令和5年6月1日、「ゼロカーボンシティ宣言」を行った。  
具体的な取組として、国から「地域脱炭素移行・再エネ推進事業(重点対策加速化事業)」に採択されたことから、調光制御機能を有する家庭用LED照明導入への補助金の交付、2050年カーボンニュートラルを実現するために、市内の温室効果ガス排出現状と再エネ導入ボテンシャルを調査・分析することにより、普及推進すべき施策を明らかにしていくことを目的として、「地域脱炭素実現に向けた再エネの最大限導入のための計画づくり支援事業」を活用した、市内のエネルギー消費量と温室効果ガス排出量の現状把握及び将来推計や、市内における再エネ発電量のボテンシャルの調査及び分析等を行った。  
また、創エネ・省エネ機器の設置費補助については、予算を増やし、過去最高の申請件数につなげることができた。  
引き続き、脱炭素社会の実現に向けた取組をより一層進めていく。

## 白岡市環境基本計画リーディングプロジェクト進行管理シート

リーディングプロジェクト2

多様な生物が生息・生育する環境づくりにチャレンジする生物多様性を保全・創出しよう！プロジェクト

令和5年度における関連する社会の出来事

低炭素社会から脱炭素社会の実現にチャレンジする脱炭素社会を実現しよう！プロジェクトを参照

### ■生物多様性を保全・創出するための取組

#### ◆多様な生き物の息づくまちをつくります！

環境基本計画で定めた「市の具体的な取組」

令和5年度に実施したこと

評価

<p>●市内に生息する生き物などの調査を実施し、市民への情報提供を行います。</p>	(環境課) 広報紙や市公式ホームページで、いきもの調査についての周知を行った。また、環境課窓口に、ひこべえの森に生息する動植物の写真パネルと「いきもの調査シート」を設置し、いきもの調査のPRを強化した。	環境課窓口に展示している写真パネルと一緒に設置した「いきもの調査シート」を手に取る市民が見受けられるようになった。 今後も新たな手法を取り入れることも考えながら、引き続きPRをしていく。
	(生涯学習課) 自然観察会など環境関連の講座を実施した。	生涯学習課の事業は一度きりではなく、季節ごとに経過を楽しみ学習できる工夫が凝らされている。 自然とのふれあいを通じて、親子の絆づくりにも寄与している。 今後も学習機会の拡大に期待がされる。
<p>●市民や関係機関と連携し、貴重な生物や在来種の保護、外来種の移入防止などの必要な保全措置を図ります。</p>	(環境課) 家屋・農業被害防止のため、市民からの依頼により捕獲器(箱わな)を設置し、アライグマを56頭捕獲した。	有害鳥獣被害対策として、引き続き取り組む必要がある。
	(街づくり課) 公園内の樹木について、樹木の状態を注視し適切な時期に剪定等を実施するなど、緑の保全に努めた。	公園は市民の健康づくり、憩い、交流の場として、また災害時の避難場所や防災空間としても重要な機能を担っている。 市民が安心・安全に公園を利用できるよう、樹木の成長を考慮しつつ、危険箇所を見極めて剪定をするなど引き続き適切な管理に努め、取組を進めていく。
<p>●公園や学校などの公共用地については、生態系に配慮して自然環境の創造に努めます。</p>	(教育総務課) 周辺との環境調和や景観美化を図るために、樹木剪定等を実施し、自然環境の創造に努めた。	周辺との環境調和や景観美化に配慮した樹木剪定等がなされている。 各学校において、引き続き適切な管理に努め、取組を進めていく。

#### ◆市民も生き物も安心して共生できる緑や水辺などの保全・創造を推進します！

環境基本計画で定めた「市の具体的な取組」

令和5年度に実施したこと

評価

<p>●市民と協力し、「ふるさとの森」をはじめ、里山林、屋敷林、社寺林などの残された樹木・樹林の保全・管理に努めます。</p>	(環境課・生涯学習課) 彦兵衛下小笠原遺跡ふるさとの森(ひこべえの森)では、12月に「ひこべえの森冬の集い」が開催され、森の大掃除が実施された(参加者:94名)。	市内に存する樹林地の多くは屋敷林や社寺林であるが、中でも彦兵衛下小笠原遺跡ふるさとの森は、市内にわずかに残された雑木林のひとつであり、埼玉県レッドデータブックにより指定された絶滅危惧種である「オオタカ」の飛来や、同じく絶滅危惧種である「シュンラン」などの希少な動植物が確認されている。 こうした背景も踏まえ、今後も引き続き生物多様性の保全・創出に向けた取組を推進していく必要がある。
	(街づくり課) 開発の法令調査において、事業者に対し生産緑地地区内であることを指導し、都市の緑地空間の確保に努めた。	生産緑地制度は市街化区域内の農地を保全する上で、非常に重要な施策である。 今後も市街化区域内の農地を同制度等により保全し、都市の緑地空間の確保を図っていく。
<p>●市街化区域内の農地を生産緑地制度等により保全し、都市の緑地空間の確保を図ります。</p>	(農政課) 国の交付金制度を活用し、地域の共同活動を実施している組織に対し、書類作成指導等の支援を行った。	水田をはじめ、農地は雨水を一時的に貯留し洪水を防いだり、多様な生き物を育むなどの多面的機能を有している。これを維持・発揮させるためにも、引き続き支援が必要である。
	(街づくり課) 柴山沼の樹木について、樹木の状態を注視し適切な時期に剪定等を実施するなど、親水空間の保全に努めた。	市内唯一のビオトープである柴山沼は、様々な動植物の生息基盤となっている。 引き続き、遊歩道の整備などにより、親水空間の保全・充実を推進していく。
<p>●農業・農村が持つ多面的機能が維持・発揮されるよう、国や県の交付金制度を活用した取組を進めます。</p>	(環境課) 不法投棄や水質汚染が発生した際は、河川管理者の杉戸県土事務所と合同で対応し、水質環境の回復に努めた。	引き続き河川管理者と連携を取り、河川の環境の保全・創造に努める。

### ■「市民・事業者」の取組

令和5年度に実施したこと

評価

<p>【市民の取組の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●減少傾向にある在来種の保全に努め、また外来種についての情報や知識を共有し、むやみに動物を放さないようにしましょう。</li> <li>●敷地内に実のなる木を植えるなどして、鳥や昆虫を守りましょう。</li> <li>●市内に生息する生き物に関心を持ち、保全する意識を持ちましょう。</li> </ul> <p>【事業者の取組の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●河川、森林、農地、湿地などが、様々な動植物の生息基盤となることを認識し、自然環境の保全に努めましょう。</li> <li>●建設事業等に当たっては、生き物や生態系に配慮した工法を用いましょう。</li> <li>●外来生物などの有害鳥獣についての情報収集に努め、駆除活動に協力しましょう。</li> </ul>	<p>彦兵衛下小笠原遺跡ふるさとの森において、白岡市、市教育委員会、白岡緑と土の会及び町ぐるみん白岡の共催による、ひこべえの森冬の集いが開催され、94名が参加した。 市民団体「元荒川・星川をきれいにする会」による、水辺環境の美化活動が行われた。</p>	<p>「白岡緑と土の会」「元荒川・星川をきれいにする会」などの市民団体のほかにも、地元の自治会や行政区による活動が市内の森や河川の環境整備に大きく寄与している。 自然環境の保全を自然環境に親しむ機会と捉え、これら市民団体の活動を広く広報することで、協力者等の増加が図られると考える。 引き続き、市民団体等の活動への支援や協力が必要である。</p>

### プロジェクトを推進するための数値目標

担当課	項目	基準	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績	中間目標	目標
		令和元年度							令和7年度	
環境課	市街化区域内の保存樹林の指定面積	20, 388m <sup>2</sup>	15, 299m <sup>2</sup>	15, 414m <sup>2</sup>	15, 414m <sup>2</sup>	15, 414m <sup>2</sup>			現状維持	現状維持
環境課	市街化区域内の保存樹木の指定本数	10本	10本	10本	10本	10本			現状維持	現状維持
街づくり課	公園緑地面積	39. 43ha	39. 43ha	39. 02ha	39. 02ha	39. 02ha			39. 43ha	40. 54ha
環境課	川の国応援団登録数	6団体	6団体	7団体	8団体	9団体			9団体	12団体

### 総括

△多様な生物が生息・生育する環境づくりにチャレンジする生物多様性を保全・創出しよう！プロジェクト

生物多様性の保全・創出に向けた取組として、市は緑の保全及び自然に配慮した街づくりの観点から取り組んでいる。

市では緑豊かな住みよい自然環境づくりを目指し、市街化区域内に残る健全で美観にすぐれ、地域市民に親しまれている樹木及び樹林を保存樹木・保存樹林に指定し、その維持管理に対して奨励金を交付しており、令和6年3月31日現在において10本の保存樹木、8箇所の保存樹林が指定されている。しかしながら、近年では維持管理の負担など様々な事情で伐採され、保存樹木・樹林は減少傾向にある。

引き続き奨励金の交付等を行うことにより、樹木・樹林を守るとともに、市内の緑の保全に努めていく。

## 白岡市環境基本計画リーディングプロジェクト進行管理シート

リーディングプロジェクト3

多くの市民が環境づくりにチャレンジする環境を学び行動する市民を増やそう！プロジェクト

令和5年度における関連する社会の出来事

低炭素社会から脱炭素社会の実現にチャレンジする脱炭素社会を実現しよう！プロジェクトを参照

### ■環境を学び行動する市民を増やすための取組

#### ◆多様な主体、世代が学べる機会を充実させます！

環境基本計画で定めた「市の具体的な取組」

●ボランティア団体などと連携しながら、自然環境に関する学習会の開催など、学校教育や社会教育での学習機会の拡大を図ります。

●保育所や児童館などにおいて、児童や親子向けの環境学習、体験学習などを実施します。

●環境関連事業の実施や、学校の授業における環境関連の副読本の活用などにより、学年に応じた環境教育や意識啓発を推進します。

●自然観察会や体験学習、各種環境関連の生涯学習講座等の実施、拡充を通じて、幅広い世代の市民に対する環境学習を促進するとともに、自然学習指導者や公園ボランティアなどの育成を図ります。

●地球環境に負荷の少ない生活への転換を促進するため、「広報しらおか」やパンフレット等により情報を提供するとともに、学校教育や社会教育等の機会を捉えて、地球温暖化対策に関する啓発を進めます。

#### ◆市民、事業者に対する白岡市の環境行政への理解を深める機会をつくります！

環境基本計画で定めた「市の具体的な取組」

●「広報しらおか」やホームページ、教育・学習の場、イベントなど様々な場所と場面で、白岡市環境基本条例、白岡市環境基本計画を周知する機会を作ります。

### 令和5年度に実施したこと

### 評価

(教育指導課)  
市内各学校での「みどりの学校ファーム」において、苗を植えたり、収穫したり等、自然に触れることで環境保全への理解を深めた。

各学校において、引き続き取り組む。また、小学生等が環境に親しむ機会作りを行い、市内に存在する自然を認知できるよう情報提供を行っていく。

(生涯学習課)  
自然観察会など環境関連の講座を実施した。

生涯学習課の事業は一度きりではなく、季節ごとに経過を楽しみ学習できる工夫が凝らされている。自然とのふれあいを通じて、親子の絆づくりにも寄与している。今後も学習機会の拡大に努める必要がある。

(子育て支援課)  
東児童館事業では児童・小学生、子育て支援事業では乳幼児を対象にリサイクル素材を使った工作・遊びを行った。

児童・児童、それぞれのライフステージに応じた環境学習に取り組んでいる。この時期における環境学習は、生涯にわたる環境保全意識を身に付ける基礎を培う役割を担っている。

(教育指導課)  
市内各学校に対し、各種団体から送付される環境に係る通知等について、積極的に情報提供を行った。また、各教科及び総合的な学習の時間において、環境問題についてふれ、児童生徒への理解を深めた。

学校においては、発達段階に合わせ、学年に応じた環境教育が行われている。持続可能な社会づくりに貢献する人材育成のため、環境教育の重要性は高い。今後も充実に向けた取組が必要である。

(環境課)  
4年ぶりに「夏の環境学習会」を開催することができ、県立川の博物館を見学し、荒川の歴史や自然に触れることができた(28名の参加)  
12月には「親子エコスクール」を開催し、牛乳パックからハガキを作成し、親子で楽しみながらリサイクルについて理解を深めた(10名の参加)。

環境問題への関心度を高めるための企画であり、幅広い分野の「環境」に関連する施設やテーマを検討して事業を開催している。

令和5年度は4年ぶりに夏の環境学習会を開催することができ、28名の参加、第2回の冬の環境学習会は、10名の参加であった。

引き続き子どもから大人までが環境について学ぶことができる講習会等を企画・運営していく。

(環境課)  
地球温暖化対策に資する取組を推進するため、各種イベントや省エネ家電への買換えを呼び掛けた。

小学生に楽しみながら温暖化について学んでもらう「コミックサイエンスショー」を実施し、地球温暖化について考えてもらうきっかけ作りを提供できた。

### ■「市民・事業者」の取組

### 令和5年度に実施したこと

### 評価

「環境学習会」などの環境課が主催するイベントで環境基本計画の概要版を出席者に配布し、条例・計画の周知を図った。

環境課が行う各種イベントにおいて参加者に計画の概要版を配布し、条例と計画の周知を行った。

令和6年度も引き続き実施していく。

#### 環境基本計画で定めた「市民・事業者」の取組の例

【市民の取組の例】  
●グリーンツーリズムなどのエコツアーに参加し、環境について楽しみながら学べる機会を多く持ちましょう。  
●自然観察会や環境学習の機会に関心を持ち、参加しましょう。  
●家庭において、環境について話し合う機会を設け、一緒に考えましょう。

#### 【事業者の取組の例】

●市や地域における環境学習の機会などに参加するとともに、企業として協力しましょう。  
●事業所の環境への取組について、地域へ周知を図るために、事業所の見学会などを検討しましょう。  
●従業員に対して、環境保全に関する勉強会などを開催し、意識向上に努めましょう。

### プロジェクトを推進するための数値目標

担当課	項目	基準	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績	中間目標	目標
		令和元年度							令和7年度	令和12年度
環境課	環境学習会・講座累計参加者数	59人	0人 コロナ禍により未実施	0人 コロナ禍により未実施	12人	38人			350人	700人
教育指導課	市内小・中学校におけるSDGsをテーマにした環境学習の実施	32回	32回	73回	179回	131回			年間48回以上	年間80回以上
環境課	市民の白岡市環境基本条例の認知度 (名前も内容も知っている)	2. 3% (令和2年度調査時の認知度)							10.0%	15.0%
環境課	市民の白岡市環境基本計画の認知度 (名前も内容も知っている)	3. 1% (令和2年度調査時の認知度)							10.0%	15.0%

### 総括

#### ◇多くの市民が環境づくりにチャレンジする環境を学び行動する市民を増やそう！プロジェクト

新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類相当に変更されたことに伴い、各課において以前のような規模で環境保全行動を意識した事業が実施されるようになった。

学校教育においては、普段の授業の中に環境に関するテーマを取り入れ、多くの環境学習が実施された。

また、生涯学習課では、「大人の自然観察会」「秋のあぜ道観察会」など、季節に応じた環境教育、環境学習の充実に取り組んでいます。

引き続き、子どもから大人まで幅広い世代に対して環境学習が行える機会を設けるよう努めていく。